

「障害者福祉の体験」

担当教員名 朝比奈茂 宮川路子

コース概要

| | |
|------|--------------------------|
| 日程 | 2016年8月4日～25日 |
| 場所 | 群馬県安中市「ゆきわりそう」の 山荘内にて |
| 参加人数 | 28名 |

コースのねらい

障害者と合宿を通じて寝食および行動をともにすることで、人間としての生き方を実感する。また福祉活動における仕事内容、それに携わっている方々と意見交換をすることで、現在の福祉環境について理解を深める。

〈内容〉

本フィールドスタディは、学部創設以来、現在まで行われてきたロングラン・プログラムであり、人間について考えることの出来るプログラムの一つです。豊島区東長崎に所在する「ゆきわりそうグループ

(<http://www.yukiwari.org/top.htm>)」の理念に共感し、互いに理解しあいながらここまで歩んできました。

人間の成長段階における最終章となる大学生時代に、障害者に関する知識・情報はほとんどない状況で、同じ人間であるのにあまりにも違う生き方をしている障害者の方々と、寝食をともにする「合宿形式」で過ごすことにより、人間について深く考えることができるプログラムであると、これまで参加したOB, OGの方々が述べております。普段私たちは、自分の意志によって行動を決定し、自由に日常生活をおくることができます。これは当たり前なのですが、そうでない人が世の中大勢いることを、このFSを通じて身体全体で感じ得るプログラムであると自負致します。



〈事前および事後学習〉

NPO法人「ゆきわりそう」より担当者（代表）を講師にお招きし、準備→体験→総括における一連の流れについて、説明を受けます。事前学習では、組織の基軸となっている「ゆきわりそうグループ」の活動内容や、障害者の身体的および精神的特徴について、DVDなどの視聴覚機器を用いて全体像の理解を深めます。学生は事前学習の内容をもとに各自プログラムを決定し、後日「ゆきわりそう」での研修を受けた後に、当日をむかえることとなります。

体験実習を終えた後に、「ゆきわりそう」から担当者をお招きして事後学習（報告会）を行います。学生は異なるプログラムごとに小グループに分かれ、各々が行った活動を共有します（情報の共有化）。グループ内で共有化をはかった後に、「FSを通じて学んだこと、考えたこと、これから行うこと」をテーマにグループごと発表を行います。

〈提出課題〉

- ①「実施報告書」 ②「フィールドノート」を作成して提出します。
- ① については、体験実習を通じて学んだこと、感じたことについて、また実習を終えて数か月経った今、日常の変化（気持ちや行動）などについて感想を交えて記述します。
- ② については、その日に行った内容を日誌形式で記述します。

〈実施プログラムおよび実施時期〉

体験実習は、群馬県安中市内にある「ゆきわりそう」の施設で2泊3日または3泊4日（プログラムによって異なります。）の合宿形式で行われます。

以下、プログラムと対象者、参加学生の人数を記します。

（参加学生数は、対象者の人数によって若干の増減があります。）

8月4日（木）～6日（土）2泊3日

- ・ソフトクリーム：知的障害児・者（参加学生5名）
- ・クレヨン：知的障害児・者（参加学生2名）
- ・絵画：知的障害児・者（参加学生1名）

8月8日（月）～10日（水）2泊3日

- ・マラソン1：知的障害児・者（参加学生5名）

8月11日（木）～13日（土）2泊3日

- ・マラソン2：知的障害児・者（参加学生4名）

8月14日（日）～16日（火）2泊3日

- ・ハーフマラソン：知的障害児・者（参加学生3名）

8月14日（日）～17日（水）3泊4日

- ・和太鼓：知的障害児・者、肢体不自由児・者（参加学生2名）

8月18日（木）～20日（土）2泊3日

- ・ゴロ野球：知的障害児・者、肢体不自由児・者（参加学生4名）

8月22日（月）～25日（木）3泊4日

- ・遊び塾：知的障害児・者（参加学生2名）



〈参加学生の実施報告書から〉

今回のFSを通して学んだことは沢山あります。その一つに思いやりの大切さです。僕はこんなに相手のことを考え行動したことはないと思うくらい担当者（障害者の方）さんのことをずっと考えていました。（中略）初めは「～してあげる。」と上から目線な態度になってしまったと思いますが、今は「一緒に～したい。」「一緒に～しよう。」と同じ目線で対等に付き合いたいと思い、またそういう気持ちの大切さを知りました。

人間環境学部1年生

今回の障害者福祉の体験から非常に貴重な経験を得ることができた。その中でも「仕事の本質とはなにか」という答えを見つけられた。「仕事とはなにか」という疑問を持っている人は少なくないと思う。長く働いていると、いつの間にか惰性に流され賃金という報酬のために働きがちではないだろうか。（中略）本当の仕事とは給料や名誉は二の次であり、する側・される側の双方が幸せや喜びを共有することだと感じた。障害者の方と共に生活をして、沢山のことを学んだ。確かに困難に遭遇し戸惑うこともあった。しかし、清々しい表情や楽しそうに大声をあげているところを目にし、私自身も幸せや喜びを強く感じるすることができた。3日間を終え「何かしてあげた。」という気持ちはなく、「一緒に何かをやり遂げた。」という気持ちで満たされた。

人間環境学部3年生（社会人学生）